

特集：中国・四国支部発足記念

日本リモートセンシング学会中国・四国支部

中国・四国支部特集企画委員会

日本リモートセンシング学会中国・四国支部事務局
(広島工業大学工学部土木工学科気付)

〒731-51 広島市佐伯区三宅 2-1-1
(1988.12.23 受付)

Introduction of Chugoku-Shikoku Chapter of the Remote Sensing Society of Japan

The Chugoku-Shikoku Chapter of the Remote Sensing Society of Japan was established on May 21, 1988 for the further prevalence of remote sensing research and education in this region, with the cooperations of universities, research institutes, government offices and private enterprises. With this valuable opportunity, we have a plan to introduce our activity in remote sensing.

With the improvement of spatial resolution due to the present sensor technological development, wider availability of the regional observation system as well as the global observation have become possible. In Chugoku and Shikoku area, applied researches of remote sensing on both the land area, including land use, forest and disaster survey, and the sea area including oceanic environmental sur-

veys of the Seto Inland Sea and its coast are being carried out on the regional basis by the several institutes.

In this paper, we are reporting the feature on case studies related to remote sensing in Chugoku and Shikoku area, as well as the inaugural address as one of the projects commemorating the first year of newly established chapter.

by the Committee for the Chugoku-Shikoku Chapter
Special Issue,
Chugoku-Shikoku Chapter,
the Remote Sensing Society of Japan

c/o Hiroshima Institute of Technology,
2-1-1, Miyake, Saeki-ku, Hiroshima, 731-51

中国・四国支部発足記念特集企画について

日本リモートセンシング学会中国・四国支部が、昭和63年5月21日に設立され、本地方におけるリモートセンシングの教育研究並びにその普及に大きく寄与しているところである。

今日、センサー技術の開発に伴う収集データの地上空間解像度の向上により、地球規模的観測はもとより観測データの地域規模での利用が期待できるようになった。中国・四国地方では、地方中核都市規模での土地利用、森林、災害等の調査を中心とした陸域、及び、太平洋、日本海沿岸、瀬戸内海の海洋海岸調査を中心とした海域におけるリモートセンシングの利用研究が様々な機関で実施されるようになった。

中国・四国地方におけるリモートセンシングの教育研究及び実務面での応用の一層の普及を図るため、産業界、官界、学会を中心とする関係者の協力の下に、本支部の設立をみたのである。初年度の記念事業の一環として、設立の挨拶並びに、中国・四国地方のリモートセンシング研究機関と研究内容についての特集を企画した次第である。

本地方においては、瀬戸内圏の開発と環境保全について、産・官・学の協力体制が緒に着いたばかりである。中国・四国山地は豊富な森林を有し、瀬戸内海は漁業資源と観光資源に恵まれ、6700 kmに及ぶ海岸線には約3000万の人口が集中している。四全総の多極分散型国土開発の中核に据えられている本地方には、リモートセンシングが解決する問題の多くを抱えていると言っても過言ではない。本支部は、このような状況の中で、リモートセンシングを地域の発展に役立てて行こうと考えており、その果たす意義は誠に大きいと言える。このような基本的認識の下に、本特集を以下の内容で構成した次第である。

(中国・四国支部 幹事長 菅 雄三)

日本リモートセンシング学会 中国・四国支部の設立

日本リモートセンシング学会中国・四国支部 支部長

広島工業大学総長 鶴 襄

わが国において本格的にリモートセンシングが推進されはじめて十数年が経過しました。この間、世界各国において地球観測衛星が打ち上げられ、それにともなう教育・研究も著しく高度化し国際的な拡がりを見せています。こうした中で日本リモートセンシング学会の設立後7年目にして中国・四国支部が設立されたことはこの分野での地方における教育・研究の発展に大きく寄与できるものとして期待されます。設立に際しましては民間企業、官庁、大学等の関係機関そして学会本部の皆様方に多大なるご支援を賜りましたことに対し厚くお礼申し上げます。

現在、中国・四国地方では瀬戸大橋をはじめ高速自動車網による交通体系の整備にみられる国土開発が展開されておりますが、一方、天与の森林資源、内海特有の水産資源そして恵まれた自然環境を有しているのもご承知の通りです。快適な環境づくりの時代ともいえる今日、宇宙からのリモートセンシングによる熱いメッセージを如何に受け止め、活用してゆくべきかをまさに学際的な見地から探求する時機ではないかと痛感しております。また、高度情報化による情報ネットワークは国際社会や大都市圏と地方との情報距離を急速に短絡化しています。この支部活動が会員諸氏の学術研究交流や情報交換の場となり、さらに地方におけるリモートセンシングの教育・研究の普及に役立つことを切に願って止みません。

皆様方のなお一層のご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

副支部長に就任して

日本リモートセンシング学会中国・四国支部 副支部長

徳島文理大学学長 添田 喬

この度、リモートセンシング学会中国四国支部の副支部長をおおせつかり、光栄に思っております。

微力ですが、鶴支部長を補佐し、役員の皆様と力を合わせ、その任務を遂行して参ります。何卒、よろしくお願ひ申し上げます。

さて、私がリモートセンシングとかかわりをもったのは、約10年前、瀬戸内海に赤潮が大量に発生して、養殖ハマチが大被害を受けた頃からであります。

当時、ランドサットデータから、何とか赤潮の発生を予知する方法を見出そうということから、京大の西川教授や今回支部役員になった大松教授らの指導で、播磨灘、内の海（うちのうみ）に何十隻と船を浮かべ、飛行機を飛ばし、海と空と宇宙とから海水の同時調査（シートルース）を行ったことがありました。一回実施するのに、漁業協同組合員や研究員など約60人が参加しましたが、準備万端整ったのに、突然雲がでて飛行機からのデータがとれず、その計画がオジャンになったこともありました。

一般に、学会活動といえ、研究成果を発表したり、講演会を行ったりすることが多いのですが、リモートセンシング学会は、このような個々の研究もさることながら、産・官・学共同で、実践的な調査研究を推進することが重要になってくると思います。

ですから、私達は、今後、中国四国支部として、どういうユニークな共同研究を進めるべきかを具体的に考え、それを実施することによって社会からも支部設立の意義を認識して貰うようにしなければならないと思います。